

日販連通信

第47号
2012年7月4日発行

発行者：日本販売農業協同組合連合会
中塚 敏春

住所：〒151-0053
東京都渋谷区代々木2-5-5
新宿農協会館

電話：03-3375-6399 Fax：03-3375-6637

Eメール：info-agricoop@pearl.ocn.ne.jp

下郷農協が洪水被害

復興に絶大なるご支援を

事務所、食肉工場、店舗などが水没





農協職員が行方不明に

大分県中津市耶馬溪では7月3日に1時間に91.0ミリの猛烈な雨、観測史上最高となる豪雨が発生しました。このため山国川は午前9時には氾濫危険水域となり、避難勧告が出されました。中津市耶馬溪で山国川が大氾濫し、下郷農協のある大島地区に水が流れ込み、あっという間に町が水没したとのことです。

農協事務所は1メートル水没し、キャビネット、机、書類、FAXなどが水につかり、全く機能できない事態になり

ました。食肉工場、購買店舗、卵選別場などの施設が水没し、多大な被害が発生しました。

なかでも、鶏肉処理工場で作業をしていた70代の男性1人が行方不明になってしまいました(7月4日午後17時現在発見されず)。鶏肉処理工場は津波の被害と全く同じで跡形もありません。

泥、泥、泥の掃き出し、洗浄、生協、住民、組合員の救援



7月4日、豪雨が残る中、下郷農協では、理事、職員、組合員が復旧に向けて、泥にまみれた事務所、食肉工場、店舗などで懸命の復旧作業を開始しました。キャビネット、机などは泥に浸かって使えませんが、とにかく当座は泥を洗い流そうと、全職員で洗い流しました。椅子は水に浸かって使い物になりません。天気になったら干してみることにしましたが泥臭いです。

深刻なのは食肉工場です。工場内が泥に浸かってしまい、衛生上深刻な被害となりました。冷凍倉庫にも泥水が入り、商品が泥に水没し、床の泥が凍結してしまいました。大量の在庫品の仕分け、冷凍庫の清掃を始めました。購買店舗では、肥料倉庫、食品売場が水没し、終日泥の掃き出しと洗浄を行いました。

グリーンコープ生協では「ニュースで耶馬溪と聞いて、いてもたってもいられず、とにかく現地に行けば何か役に立つと思い下郷農協に来ました」と泥と汗まみれになって洗浄、清掃作業を行いました。

横山理事、山崎理事は率先して、自分たちの被害を省みず農協の泥、周辺の片付けに終日あたりました。

日販連では2名が7月4日から現地での支援活動に入りました。



組合員、職員が団結し、支援者の期待に応えたい

矢崎組合長(本会会長)が終礼で訴え

「終日の奮闘に感謝したい。本日はグリーンコープ、日販連が支援に来てくれ、さらに農民連、全労連、綾町農協が大挙して明日応援に来てくださる。3. 11の被災地の宮城県加工連、茨城県やさと農協からも励ましの電話をいただいた。返す言葉も無い熱い支援であり、下郷農協がこの苦難を跳ね返し、見事に復興することこそが支援者への期待に応えることです」と力強く職員に訴えました。

綾町農協6人、日販連4人、福岡農民連10人、大分県労連、JA県連などが支援に入ります。

やさと農協、加工連などが支援物資、農民連が7月6日に下郷農協に。東都生協も来協検討。

明日、7月5日には綾町農協が6人で支援に入ります。緊急のお願いにもかかわらず、中村組合長、外山常務が「産直の原点は下郷農協、農協の都合など言っていない」と即座に救援隊を組織し、即日出発です。

農民連では、福岡農民連に支援を要請して10人、さらに農民連が全国災対連に要請した県労連などが救援に入ります。茨城県やさと農協、宮城県加工連などからは支援物資の申し出がありました。

農民連本部、東都生協なども来協を検討しています。

**二次災害にご注意ください。時間に余裕をもってご支援を
このような道があります。**



みなさまのご意見・ご感想をお待ちしております。 アドレス: info-agricoop@pearl.ocn.ne.jp